



平成26年度能力開発基本調査(事業所票)

所在地	
事業所名	
事業所ID	産業分類番号
パスワード	

記入担当者
所属課名
電話番号
メールアドレス
氏名

宛名の所在地、貴事業所名に誤りがある場合には赤色ボールペン等でご訂正ください。

この調査は、上記のID、パスワードにて、**オンラインでもご回答いただけます。**
アクセス方法などは同封の「オンライン回答のご案内」をご覧ください。

調査にあたって

- この調査票に記入された事項については、個別事業所の秘密を守り、統計以外の目的に用いることは絶対にありませんので、ありのままをご記入ください。
- この調査票は、問1以外は事業所を調査単位としております。本社、支社、工場及び営業所ごとに別の事業所となりますので、問1以外の項目についての回答は、**貴事業所について**ご記入ください。
- 特にことわりのないかぎり、**平成26年10月1日現在**の状況についてご記入ください。
- 設問によって回答個数が異なりますので、設問文の指示に従ってください。なお、特にことわりのない場合は、該当する選択肢を1つ選び番号を○で囲んでください。ただし、**回答欄が網掛けの場合は、設問に従って複数回答**をお願いします。
- 文中で数字(*¹、*²...)を付している用語には、その説明を設問の近くに載せましたのでご参照ください。
- 調査票の実数記入欄など、ご記入上特にご注意いただきたい点について、その説明を設問の近くに載せましたのでご参照ください。
- 記入が終わりました調査票は、2頁に記載されている調査実施拠点の調査員が回収にうかがいます。(調査員による訪問期間は、**平成26年10月3日～10月24日**を予定しています。)
- 調査票の内容、調査員活動などにご不明な点がありましたら、2頁に記載されている調査実施拠点までお問い合わせください。**

調査のお問合せ： 厚生労働省能力開発基本調査事務局
TEL：0120-838-060
FAX：03-3802-6733
メール：nou-ji@surece.co.jp

調査主体： 厚生労働省職業能力開発局総務課基盤整備室

【調査実施・調査員活動についてのご案内】

- ご記入いただいた調査票は、厚生労働省より委託を受けた（受託企業）の調査員が訪問し回収いたします。
- 調査員による訪問期間は、平成26年10月3日（金）～10月24日（金）を予定しています。
- 当調査は調査実施拠点ごとに調査員を管轄しております。調査員の訪問日時等に関するお問い合わせは、貴事業所の該当する下記の実施拠点までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。
- なお、調査員訪問の際、別途貴事業所の従業員様の調査（個人調査）についてのお願いをいたしますので、併せてご協力の程よろしくお願い申し上げます。

貴事業所 所在地域	調査実施拠点連絡先
北海道	0120-838-060
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	0120-55-0982
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県	0120-838-060
山梨県、静岡県	0120-203-662
富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県	0120-981-944
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	0120-502-074
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	0120-965-291
徳島県、香川県、愛媛県、高知県	0120-964-428
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	0120-337-686

厚生労働省能力開発基本調査事務局
TEL 0120-838-060
FAX 03-3802-6733
メール nou-ji@surece.co.jp

I 貴事業所の概要について

すべての事業所にうかがいます

問1 貴社全体（本社、支社、工場、営業所等を合わせた全体）の常用労働者*¹数について該当する区分1つに○をつけてください。

常用労働者数	30～49人	50～99人	100～299人	300～999人	1000人～
区分	1	2	3	4	5

【問1】

本設問のみ、貴社全体（本社、支社、工場、営業所等を合わせた全体）についてお答え下さい。

これ以降の設問は、貴事業所の状況についてうかがいます。貴事業所の状況をご回答ください。回答欄が正社員と正社員以外に分かれている設問は、それぞれの状況を回答欄にご記入ください。

すべての事業所にうかがいます

問2 貴事業所の常用労働者*¹数を正社員*²、正社員以外*³に分けてご記入ください（平成26年10月1日現在）（いない場合は「0」をご記入ください。）。

	常用労働者数				
正社員	●	●	●	●	人
正社員以外	●	●	●	●	人

すべての事業所にうかがいます

問3 貴事業所の平成25年度（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の離職者数（定年退職者及び更新、再雇用、継続雇用等で貴事業所に再雇用された人を除く。）を正社員、正社員以外に分けてご記入ください（いない場合は「0」をご記入ください。）。

	離職者数				
正社員	●	●	●	●	人
正社員以外	●	●	●	●	人

* 1 常用労働者

貴社に直接雇用されている労働者で①・②のどちらかに該当する労働者をいいます。なお、別企業に出向している者は含めないでください。

- ① 期間を定めずに、又は1か月を超える期間を定めて雇われている者
- ② 臨時又は日雇労働者で、調査日前の2か月の各月にそれぞれ18日以上雇われた者

* 2 正社員

常用労働者のうち、雇用期間の定めのない者であって、パートタイム労働者などを除いた、いわゆる正社員をいいます。

* 3 正社員以外

常用労働者のうち、上記正社員以外の人をいいます（「嘱託」、「契約社員」、「パートタイム労働者」又はそれに近い名称で呼ばれている人など）。なお、派遣労働者及び請負労働者は含みません。

これ以降の設問で、「正社員」、「正社員以外」それぞれの状況をおうかがいしている設問については、貴事業所の状況に応じて以下のようにご回答ください。

●平成26年10月1日現在、**正社員が「いない」事業所**

(問2の「正社員」の欄が0人の事業所) → 問4以降の「正社員」の欄への記入は不要です。

●平成26年10月1日現在、**正社員以外が「いない」事業所**

(問2の「正社員以外」の欄が0人の事業所) → 問4以降の「正社員以外」の欄への記入は不要です。

II 教育訓練の実施に関する事項について

すべての事業所にうかがいます

問4

(1) 貴事業所では平成25年度に職業能力開発・向上のためのOFF-JT*4を実施しましたか。実施した対象**すべて**に○をつけてください。

OFF-JTを実施した				OFF-JTを実施していない
正社員			正社員以外	
新入社員*5	中堅社員*6	管理職層*7		
1	2	3	4	5

↓
5 頁問4 (4) へ

問4(1)で「1 新入社員」～「4 正社員以外」のいずれかに○をつけた事業所にうかがいます

(2) 貴事業所で平成25年度にOFF-JTを実施した際、どこが実施主体となっている教育訓練(教育訓練機関)を利用しましたか。正社員、正社員以外それぞれについて該当するもの**すべて**に○をつけてください。

	正社員	正社員以外
自社	1	1
親会社、グループ会社	2	2
民間教育訓練機関(民間教育研修会社、民間企業主催のセミナー等)	3	3
購入した機器、ソフトウェア等の使用方法等を教育訓練する場合の当該機器、ソフトウェア等のメーカー	4	4
商工会、商工会議所、協同組合等の経営者団体	5	5
職業能力開発協会、労働基準協会、公益法人(財団、社団、職業訓練法人等)、その他業界団体	6	6
公共職業訓練機関(ポリテクセンター、工業技術センター、試験所等含む)	7	7
専修学校、各種学校	8	8
高等専門学校、大学、大学院	9	9
その他	10	10

***4 OFF-JT**

業務命令に基づき、通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練(研修)のことをいい、例えば、社内で実施(労働者を1か所に集合させて実施する集合訓練など)や、社外で実施(業界団体や民間の教育訓練機関など社外の教育訓練機関が実施する教育訓練に労働者を派遣することなど)が、これに含まれます。

***5 新入社員**

入社後3年程度までの者をいいます。

***6 中堅社員**

管理職層及び新入社員に該当しない者をいいます。

***7 管理職層**

管理または監督の任にある者をいいます。

問4(1)で「1 新入社員」～「4 正社員以外」のいずれかに○をつけた事業所にうかがいます

(3) 実施したのはどのようなOFF-JTでしたか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

新規採用者など初任層を対象とする研修	1
新たに中堅社員となった者を対象とする研修	2
新たに管理職となった者を対象とする研修	3
ビジネスマナー等のビジネスの基礎知識	4
マネジメント（管理・監督能力を高める内容など）	5
コミュニケーション能力	6
広報・広聴能力	7
法務・コンプライアンス	8
財務会計	9
品質管理	10
プレゼンテーション・ディベート	11
語学・国際化対応能力	12
OA・コンピュータ	13
工作機械・輸送用機器等の操作	14
技能の習得	15
その他	16

すべての事業所にうかがいます

(4) OFF-JTにおける外部機関*⁸の利用に関して、何か問題点はありますか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

優れた教育訓練機関がどこかが分かりにくい	1
優れた講座が何か分かりにくい	2
教育訓練機関として備えていなければならない最低限の質が確保されているかどうか分かりにくい	3
講座として備えていなければならない最低限の質が確保されているのかどうか分かりにくい	4
教育訓練機関の実績等の情報が少ない	5
講座の実績等の情報が少ない	6
費用が高い	7
その他	8
特に問題はない	9

*** 8 外部機関**

教育訓練機関のうち、自社・親会社・グループ会社を除いたものをいいます。

すべての事業所にうかがいます

(5) O F F - J Tにおける外部機関の利用に関して、どのような制度・支援があるとよいですか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

特に優れた教育訓練機関であるかどうか判断しやすくするため、特に優れた教育訓練機関に対して国が表彰を行う制度	1
特に優れた講座であるかどうか判断しやすくするため、特に優れた講座に対して国が表彰を行う制度	2
優れた教育訓練機関であるかどうか判断しやすくするため、優れた教育訓練機関に対して国が認定を行う制度	3
優れた講座であるかどうか判断しやすくするため、優れた講座に対して国が認定を行う制度	4
教育訓練機関として備えていなければならない最低限の質が確保されているかどうか判断しやすくするため、最低限の質を備えている教育訓練機関に対して国が認定を行う制度	5
講座として備えていなければならない最低限の質が確保されているかどうか判断しやすくするため、最低限の質を備えている講座に対して国が認定を行う制度	6
教育訓練機関の実績等の情報公開の義務付け・促進制度	7
講座の実績等の情報公開の義務付け・促進制度	8
O F F - J Tへの財政的支援(助成金・税制優遇等)	9
その他	10

すべての事業所にうかがいます

(6) 貴事業所では平成25年度に職業能力開発・向上のための計画的なO J T^{*9}を実施しましたか。実施した対象**すべて**に○をつけてください。

計画的なO J Tを実施した			正社員以外	計画的なO J Tを実施していない
正社員				
新入社員	中堅社員	管理職層		
1	2	3	4	5

***9 計画的なOJT**

日常の業務に就きながら行われる教育訓練のことをいい、教育訓練に関する計画書を作成するなどして教育担当者、対象者、期間、内容などを具体的に定めて、段階的・継続的に教育訓練を実施することをいいます。例えば、教育訓練計画に基づき、ライン長などが教育訓練担当者として作業方法等について部下に指導することなどが、これに含まれます。

Ⅲ 人材育成について

すべての事業所にうかがいます

問5 貴事業所における労働者の能力開発や人材育成に関して、何か問題点はありますか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

人材を育成しても辞めてしまう	1
鍛えがいのある人材が集まらない	2
指導する人材が不足している	3
育成を行うための金銭的余裕がない	4
人材育成を行う時間がない	5
人材育成の方法がわからない	6
適切な教育訓練機関がない	7
技術革新や業務変更が頻繁なため、人材育成が無駄になる	8
その他	9
特に問題はない	10

Ⅳ 労働者のキャリア形成支援について

すべての事業所にうかがいます

問6

(1) ジョブ・カード制度*10をご存知ですか。該当するもの**1つ**に○をつけてください。

内容を含めて知っており活用している	内容を含めて知っているが活用していない	名称(言葉)は聞いたことがあるが内容は知らない	名称(言葉)を聞いたことがなく、内容も知らない
1	2	3	4

8頁問7(1)へ

問6(1)で「1 内容を含めて知っており活用している」に○をつけた事業所にうかがいます

(2) ジョブ・カード制度について、どのように活用していますか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

ジョブ・カード制度による訓練を実施している	1
ジョブ・カード制度による訓練の実施を検討している	2
ジョブ・カード様式を面接で利用している	3
ジョブ・カードを労働者の職業能力開発・キャリア形成を図るためのツールとして利用している	4
ジョブ・カードを労働者の職業能力を評価するためのツールとして利用している	5
雇止め時の再就職の支援のためにジョブ・カードを活用したキャリア・コンサルティングを実施している	6

*10 ジョブ・カード制度

広く求職者等を対象として、きめ細かなキャリア・コンサルティング、実践的な職業訓練(職業能力形成プログラム)の機会の提供、企業や訓練実施機関からの能力評価や職務経歴等のジョブ・カードへの取りまとめを通じ安定的な雇用への移行等を促進する制度のことをいいます。

すべての事業所にうかがいます

問7

(1) 従業員のキャリア形成の支援に際して、キャリアアップ助成金（人材育成コース）*11を利用したことはありますか。該当するもの**1つ**に○をつけてください。

平成25年度に利用した	1
制度について知っているが、利用したことはない	2
制度について知らないため、利用したことはない	3

→ 問7(2)へ

問7(1)で「2 知っているが利用したことはない」に○をつけた事業所にうかがいます

(2) キャリアアップ助成金（人材育成コース）を利用しない理由について、該当するもの**すべて**に○を付けてください。

時間的余裕がないため、労働者に訓練をさせていない	1
金銭的余裕がないため、労働者に訓練をさせていない	2
訓練対象者がいない、日々の業務でキャリアアップが図れる等の理由から、訓練を行う必要がなく、労働者に訓練をさせていないため	3
手続きが面倒又は制度がわかりにくいため	4
助成率が低いため	5
助成の要件に当てはまらないため	6
その他	7

***11 キャリアアップ助成金（人材育成コース）**

有期契約労働者、短時間労働者、派遣労働者といった、いわゆる非正規雇用の労働者の企業内でのキャリアアップを促進するため、正規雇用への転換、人材育成、処遇改善などの取り組みを実施した事業主に対して助成する制度のことをいいます。うち人材育成コースとは、有期契約労働者等に対して以下の訓練のいずれかを行った場合、助成を行うコースをいいます。

- ・一般職業訓練（OFF-JT）
- ・有期実習型訓練（「ジョブ・カード」を活用したOFF-JTとOJTを組み合わせた3～6か月の職業訓練）

すべての事業所にうかがいます

問8

(1) 従業員のキャリア形成の支援に際して、キャリア形成促進助成金*12を利用したことはありますか。該当するもの**1つ**に○をつけてください。

直近平成25年度に利用した	1
平成24年度以前に利用した（1に該当する者を除く）	2
制度について知っているが、利用したことはない	3
制度について知らないため、利用したことはない	4

→ 問8(2)へ

問8(1)で「3 制度について知っているが、利用したことがない」に○をつけた事業所にうかがいます

(2) キャリア形成促進助成金を利用したことがない理由について、該当するもの**すべて**に○をつけてください。

時間的余裕がないため、労働者に訓練をさせていない	1
金銭的余裕がないため、労働者に訓練をさせていない	2
訓練対象者がいない、日々の業務でキャリアアップが図れる等から、訓練を行う必要がなく、労働者に訓練をさせていないため	3
手続き面倒又は制度がわかりにくいため	4
助成率が低い	5
助成の要件に当てはまらない	6
その他	7

***12 キャリア形成促進助成金**

労働者のキャリア形成を効果的に促進するため、雇用する労働者に対して職業訓練などを計画に沿って実施した場合に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部を助成する制度のことをいいます。詳細は、厚生労働省のホームページをご覧ください。

(http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html)

すべての事業所にうかがいます

問9

(1) 貴事業所では、キャリアに関する相談（キャリア・コンサルティング*13）を行うしくみ（社内規定などで明確に制度化されているものに限らず、慣行として行われるものなども含みます。）はありますか。正社員、正社員以外それぞれについて、該当するもの**1つ**に○をつけてください。

	ある	ない
正社員	1	2
正社員以外	1	2

【問9】
正社員がいない又は正社員以外がいない場合は、いない区分については回答不要です。



いずれも「2」の場合は11頁問9(5)へ

***13 キャリア・コンサルティング**

個人が、その適性や職業経験等に応じて自らの職業生活設計を行い、これに即した職業選択や能力開発を効果的に行えるようにするための相談その他の支援のことをいいます。キャリア・カウンセリングなどと呼ばれることもあります。

問9(1)で「1 ある」の選択肢について、○をつけた項目(正社員、正社員以外)について、次の質問にご回答ください

(2) キャリアに関する相談を行っている目的について正社員、正社員以外それぞれについて、該当するもの**すべて**に○をつけてください。

	正社員	正社員以外
労働者の自己啓発*14を促すため	1	1
労働者の主体的な職業生活設計*15を支援するため	2	2
労働者の希望等を踏まえ、人事管理制度を的確に運用するため	3	3
社内教育プログラムの運用をより効果的に行うため	4	4
労働者の仕事に対する意識を高め、職場の活性化を図るため	5	5
新入社員・若年労働者の職場定着促進のため	6	6
中高年社員の退職後の生活設計や再就職等の支援のため	7	7
メンタルヘルス上の理由による長期休業等の予防や職場復帰支援のため	8	8
その他	9	9

問9(1)で「1 ある」の選択肢について、○をつけた項目(正社員、正社員以外)について、次の質問にご回答ください

(3) キャリアに関する相談を行ううえで、何か問題点はありますか。正社員、正社員以外それぞれについて、該当するもの**すべて**に○をつけてください。

	正社員	正社員以外
労働者がキャリアに関する相談をする時間を確保することが難しい	1	1
社員のキャリア・コンサルタント*16資格取得にはコストがかかる	2	2
外部のキャリア・コンサルタント依頼にはコストがかかる	3	3
ニーズに合ったキャリア・コンサルタントを探すことが難しい	4	4
相談を受けられる者はいるが、その者の他の業務が多忙のため、キャリアに関する相談を受ける時間がない	5	5
キャリアに関する相談を行っても、その効果が見えにくい	6	6
労働者からの相談件数が少ない	7	7
その他	8	8
特に問題はない	9	9

***14 自己啓発**

労働者が職業生活を継続するために行う、職業に関する能力を自発的に開発し、向上させるための活動をいいます(職業に関係ない趣味、娯楽、スポーツ健康増進等のためのものは含みません。)

***15 職業生活設計**

労働者が、その適性、職業経験等に応じ、職業の選択、職業能力の開発及び向上のための取組について計画することをいいます。

***16 キャリア・コンサルタント**

個人が、その適性や職業経験等に応じて自らの職業生活設計を行い、これに即した職業選択や能力開発を効果的に行えるようにするための相談その他の支援を行う専門家のことをいいます。

問9(1)で正社員、正社員以外のいずれか、または双方で「1ある」に○をつけた事業所にうかがいます

(4) 貴事業所で相談を受けているのは、キャリア・コンサルタントですか。

そうである	そうではない	わからない
1	2	3
→		

問9(1)において正社員、正社員以外について

- いずれも「1ある」に○をつけた場合は 問10(1)へ
- いずれかで「2ない」に○をつけた場合は 問9(5)へ

問9(1)で「2 ない」の選択肢について、○をつけた項目(正社員、正社員以外)について、次の質問にご回答ください

(5) キャリアに関する相談を行っていない理由は何ですか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

	正社員	正社員以外
労働者がキャリアに関する相談をする時間を確保することが難しい	1	1
社員のキャリア・コンサルタント資格取得にはコストがかかる	2	2
外部のキャリア・コンサルタント依頼にはコストがかかる	3	3
ニーズに合ったキャリア・コンサルタントを探すことが難しい	4	4
相談を受けるための人員を割くことが難しい	5	5
労働者からの希望がない	6	6
キャリアについての相談を行う必要はない	7	7
その他	8	8

V 労働者の職業能力評価について

すべての事業所にうかがいます

問10

(1) 貴事業所において、職業能力評価^{*17}を行っていますか。正社員、正社員以外のそれぞれについて、該当するもの**1つ**に○をつけてください。

	行っている	行っていない
正社員	1	2
正社員以外	1	2

【問10】

正社員がいない又は正社員以外がいない場合は、いない区分については回答不要です。

いずれも「2」の場合は
13頁問11へ

***17 職業能力評価**

職業に必要となる技能や能力の評価のうち、厚生労働省が作成した「職業能力評価基準」に準拠した評価基準、会社が独自に作成した評価基準や業界団体で作成した評価基準、あるいは、既存の各種検定・資格に基づいて評価が行われているものをいいます。

問10(1)で「1 行っている」に○をつけた事業所にうかがいます

(2) 職業能力評価を行う際、検定・資格を利用していますか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

正社員について検定・資格を利用している	正社員以外について検定・資格を利用している	利用していない
1	2	3

13頁問11へ

問10(2)で「1 正社員について検定・資格を利用している」又は「2 正社員以外について検定・資格を利用している」に○をつけた事業所にうかがいます

(3) 職業能力評価を行う際、既存のどのような検定・資格を利用していますか。該当するものすべてに○をつけてください。

技能検定*18	1
国家検定・資格*19（技能検定を除く）又は公的検定・資格*20	2
民間団体が認定する民間検定・資格	3
事業主等が認定する社内検定・資格	4
その他	5

***18 技能検定**

職業能力開発促進法に基づき、労働者の有する技能の程度を検定し、これを公証する国家検定制度のことをいいます。

***19 国家検定・資格**

法令等に基づいて国が実施・認定する検定・資格をいいます。

***20 公的検定・資格**

国の基準等に基づいて公益法人等が実施、国が認定する検定・資格をいいます。

問10(2)で「1 正社員について検定・資格を利用している」又は「2 正社員以外について検定・資格を利用している」に○をつけた事業所にうかがいます

(4) 職業能力評価のための検定・資格について、取得に直接必要な費用に対して、費用補助を行っていますか。また費用補助を行っている場合は、どの程度補助していますか。該当するものすべてに○をつけてください。

費用補助を行っている	費用の全部を補助している検定・資格がある	1
	費用の一部を補助している検定・資格がある	2
費用補助を行っている検定・資格がない		3

問10(1)で「1（職業能力評価を）行っている」に○をつけた事業所にうかがいます

(5) 貴事業所では、職業能力評価をどのようなことに活用していますか。該当するものすべてに○をつけてください。

人材の採用	1
人材配置の適正化	2
人材戦略・計画の策定	3
人事考課（賞与、給与、昇格・降格、異動・配置転換等）の判断基準	4
労働者に必要な能力開発の目標	5
技能継承のための手段	6
その他	7

問10(1)で「1(職業能力評価)を行っている」に○をつけた事業所にうかがいます

(6) 現行の職業能力評価に係る取り組みにおいて、問題であると感じた点は何ですか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

評価項目に対して労働者のコンセンサスが得られない	1
全部門・職種で公平な評価項目の設定が難しい	2
業界共通の職業能力評価基準や試験が十分に整備されていない	3
評価者の負担が大きい	4
評価者が評価基準を把握していないなど、評価内容にばらつきが見られる	5
その他	6
特に問題はない	7

VI 技能の継承について

すべての事業所にうかがいます

問11 技能継承への対応としてどのような取り組みを行っていますか。該当するもの**すべて**に○をつけてください。

退職者の中から必要な者を選抜して雇用延長、嘱託による再雇用を行い、指導者として活用している	1
新規学卒者の採用を増やしている	2
中途採用を増やしている	3
不足している技能を補うために契約社員、派遣社員を活用している	4
事業所外への外注を活用している	5
技能継承のための特別な教育訓練により、若年・中堅層に対する技能・ノウハウ等伝承している	6
退職予定者の伝承すべき技能・ノウハウ等を文書化、データベース化、マニュアル化している	7
高度な技能・ノウハウ等が不要のように仕事のやり方、設計等を変更している	8
伝承すべき技能・ノウハウ等を絞り込んで伝承している	9
その他	10
特段何の取り組みも行っていない	11

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。